

# PREFACE

## ■ 編集方針

英作文はその人の英語力を表す「鏡」です。あなたが書く英文は、あなたの英語の力を端的に表します。逆に、あなたに英語の力が身に付けば、あなたが書く英文は立派なものになります。本書は、あなたが「立派な」英文を書くことができるようになるための一助となることを期しています。立派な英文とは何か。それは文法・語法的に誤りがなく、教養あるコミュニケーションを行うために使える英文です。このような英文を書くための「修行」の場を提供したい。これが編者の願いであり、また、本書のねらいです。

本書は、その書名にあるように、「和文英訳」を中心とした問題集であり、レベルの高い問題も多く含まれています。上位校・難関校と呼ばれる国公立大学・私立大学、及びハイレベルな学部・学科の入試対策用の問題集といえます。

## ■ 特 色

本書はテーマごとに4つのパートに分け、精選した全451問を収録した。

**Part 1** 6つのChapterからなり、英作文をする際の一般的な留意事項を、「英作文のコツ」として、例題と解説、さらに語句整序(8問)、部分英訳(56問)、和文英訳(18問)の問題演習を通して体感できるようにまとめた。

**Part 2** 本書のメインとなるパート。文法分野ごとに主な文法事項を網羅し、16のChapterにまとめ、各Chapter内は次のように構成し、問題を収録した。

- (1) 冒頭に、英作文の際に役立つ例文(Model Sentences - Basic / Advanced)を和訳と解説とともに組み込み、典型的な誤訳例をも掲げて注意を促した。
- (2) Exercises A Ⅱ - 語句整序問題(75問) Ⅲ - 部分英訳問題(71問)
- (3) Exercises B 和文英訳問題(97問; 易難順に配列)

**Part 3** 12のChapterからなり、「目的・意図」、「原因・理由・結果」など、英語の表現・機能ごとに和文英訳の問題を71問収録した。

**Part 4** 8つのChapterからなり、「日常生活一般」、「言語・文化・読書」など、話題(トピック)ごとに和文英訳の問題を48問収録した。

【付録】 いわゆる自由英作文や課題英作文の問題を7問収録した。

また、Part 3 ~ Part 4ではそれぞれの冒頭に、参考となって「使える」例文や語句・表現などをまとめて提示した。

最後になりますが、本書の編集にあたり、英文の校閲をしていただきました早稲田大学講師 Jayna Tokie Tanaka 先生に厚く御礼申し上げます。

本書が皆さんの英語学習に役立つものになることを心より願っています。

平成25年10月 萩野 俊哉

# CONTENTS

## Part 1 — 英作文のコツ

Chapter	page	Chapter	page
1 日本語を解きほぐす	4	4 修飾関係を見きわめる	10
2 主語の設定を的確に	6	5 接続表現に注目する	12
3 述語動詞の設定を的確に	8	6 「落とし穴」にはまらない	14

## Part 2 — 文法項目別に攻める

1 時 制	16	9 仮 定 法	40
2 助 動 詞	19	10 話法・会話表現	43
3 態	22	11 否 定	46
4 不 定 詞	25	12 前置詞・接続詞	49
5 動 名 詞	28	13 冠詞・名詞・代名詞	52
6 分 詞	31	14 形容詞・副詞	55
7 比 較	34	15 名詞構文・無生物主語	58
8 関 係 詞	37	16 強調・倒置・省略・同格・挿入	61

## Part 3 — 頻出表現別に攻める

0 Model Sentences for Part 3	64	7 時・頻度	74
1 目的・意図	68	8 数量・時間・程度	75
2 原因・理由・結果	69	9 当然・助言・命令	76
3 条件・仮定	70	10 必要・可能・能力	77
4 比較・比例	71	11 強調・疑問・推測	78
5 譲歩・対立	72	12 提案・要求	79
6 願望・依頼・勧誘	73		

## Part 4 — 頻出トピック別に攻める

0 Words & Phrases for Part 4	80	5 天候・自然・科学	88
1 日常生活一般	84	6 人生・趣味・芸術	89
2 言語・文化・読書	85	7 教育・学校	90
3 旅行・交通	86	8 健康・スポーツ	91
4 日本・社会・経済	87	付録 自由英作文・課題英作文	92

## 【記号類について】

* 入試頻出問題	( ) 省略可能
† 改作問題	[ ] 言い換え可能
★ ハイレベル問題	do 原形不定詞(動詞の原形)
<b>Hints</b> 日本語の英訳語句	doing 動名詞/現在分詞
英訳する際に参考となる例文	one's 所有格

## Chapter 1

## 日本語を解きほぐす

日本語の1語1語をそのまま直訳しても正しい英文にはならない。まず日本語をほぐして、英語に訳しやすくするための作業が必要になる。ふだん使い慣れている日本語でも、日本語独特の言い回しなどがあり、注意が必要である。

**例題** 与えられた日本語を下線部に注意しながら、それぞれ英語に直しなさい。

## ① 彼とは肌が合わない。

「肌」は skin。「合う」は、たとえば fit として、My skin doesn't fit his (skin). あるいは、His skin doesn't fit mine. などと直訳しても、まったく意味が通じない。

「肌が合わない」とは「仲良くやれない」ということである。get along with ~ (〜と仲良くやっていく) の表現を使って、次のように書くのが正解。

【正解】 I cannot get along with him.

## ② 彼女は息子を目に入れても痛くないと思っている。

直訳は、たとえば、She thinks she wouldn't feel pain even if she put her son into her eye. などとなるが、これではまったくナンセンスであり、意味がわからない。

「目に入れても痛くない」とは「心から【とても】愛している」ということである。よって正解は次のようにとてもシンプルな英文となる。

【正解】 She loves her son very much.

また、慣用表現を使って、Her son is the apple of her eye. とも訳せる。もともと the apple of one's eye は目の「ひとみ」を表す表現であり、それくらいなくてはならない大事なものの、という意味で用いられる。

## I 日本語とほぼ同じ意味になるように、空所に適切な語を入れて英文を完成しなさい。

1. どうも彼の言うことはぴんと来ない。

I can't ( ) him ( ) all.

2. 長生きの秘訣は、生きがいを持つことだそうだ。

It is said that the secret of living long is to have something to ( ) ( ). (青山学院大)

3. 礼儀のない人は私の神経にさわる。

People with no manners really get ( ) my ( ). (安田女子大)

4. 自分は何もしないで助けてくれというのでは虫がよすぎます。

It is very ( ) of you to ask for help without doing anything for yourself. (福岡大)

5. 車を運転するとき、幅の狭い道が多くてひやひやします。

When I drive, I am ( ) because there are a lot of narrow streets. (岡山大)

## II 下線部に注意して、与えられた語句を用いて日本語を英文に直しなさい。

1. 土壇場になって言葉が出てこなかった。

( Words / me / moment ) (明治大)

2. 君はどうして僕のことをそんなに目の敵にするんだい。

( Why / treating / an enemy ) (南山大)

3. あなたの言ったことは、どちらかといえば場違いでした。

( remarks / rather / place ) (西南学院大)

4. この頃は猫も杓子も英語を勉強するようになったね。

( crazy / learning / these days ) (明治大)

5. 人は若いからこそ馬鹿なまねをしたくなるものです。

( One / play / because / one / young ) (独協大)

## III 下線部に注意して、日本語を英文に直しなさい。

1. あなたは背が高いですね。クラスで後ろから何番目ですか。

(岡山大)

2. 我々はなぜ、初対面の人に対して、あるいは大勢の前で公式の話をするとすると、尻込みをするのだろうか。

(京都府立大)

3. 日本では反対をむき出しにしない。沈黙が不賛成を意味することが多い。だが、欧米では、沈黙は賛成とみなすのが通り相場である。

(同志社大)

## Hints

III 1. 「後ろから何番目」をどう英訳するかがポイント。直訳しても英米では通じない。2. 「初対面の人に対して」→「初対面の人と会って」と考える。「尻込みをする」とはどういう意味か。英訳しやすい別の日本語で言い換えることができるか。3. 「反対」opposition | 「不賛成」disagreement

Chapter 1

時制

Model Sentences - Basic

- |                                                                           |                          |
|---------------------------------------------------------------------------|--------------------------|
| 1. If it <b>is</b> sunny tomorrow, I will go to the park.                 | ▶ 明日晴れたら、公園に行くつもりだ。      |
| 2. I <b>thought</b> he <b>would</b> pass the exam.                        | ▶ 彼はその試験に合格すると私は思った。     |
| 3. <b>Have</b> you <b>been</b> to Kyoto?                                  | ▶ 京都へ行ったことがありますか。        |
| 4. The train <b>had</b> already <b>started</b> when I got to the station. | ▶ 駅に着いたときにはもう列車は出ていた。    |
| 5. He <b>has been playing</b> a video game for thirty minutes.            | ▶ 彼は30分間、テレビゲームで遊び続けている。 |

Model Sentences - Advanced

- |                                                                                     |                                    |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|
| 1. I plan to go to Kyoto when I <b>have finished</b> this examination.              | ▶ 私はこの試験を終えたら、京都に出かける予定だ。          |
| 2. She <b>is always complaining</b> .                                               | ▶ 彼女はいつも不平ばかり言っている。                |
| 3. We <b>will be playing</b> tennis at this time tomorrow.                          | ▶ 私たちは明日の今頃はテニスをしているだろう。           |
| 4. My father <b>bought</b> me a pencil case, but I <b>lost</b> it.                  | ▶ 父は私に筆箱を買ってくれたが、私はそれをなくしてしまった。    |
| 5. Next month, I <b>will have been</b> a member of the soccer team for three years. | ▶ 来月で、私は3年間そのサッカーチームのメンバーだったことになる。 |

Watch out!

- 私は3年前に京都へ行ったことがあります。
- × I have been to Kyoto three years ago.
- I went to Kyoto three years ago.

**解説** 【MS-B】 1. 「時」や「条件」を表す副詞節の中では、現在時制で未来を表す。 2. 「時制の一致」の例文。主節の動詞が過去なら、従属節の(助)動詞は過去か過去完了。 3. 「経験」を表す現在完了形。 4. 「過去のある時」までの動作の完了・結果を表す過去完了形。 5. 現在完了進行形。過去に始まった動作が現在まで続いていることを表す。

【MS-A】 1. 「時」や「条件」を表す副詞節の中での未来完了には現在完了を用いる。 2. 絶えず繰り返されている動作を表す進行形。「迷惑だ」「好ましくない」などの感情を含む。 3. 未来のある時において進行中・継続中の動作を表す未来進行形。 4. 文脈から時の前後関係が明白なため、My father *had bought* me a pencil case, but I *lost* it. とする必要はない。 5. 「未来のある時」までの状態の継続を表す未来完了形。

【Watch out!】 現在完了は現在とつながっている表現形式。現在のことを表しているといってもよい。よって、「過去の時」を表す副詞(句・節) (three years ago) とともに用いることはできない。

Exercises A

- I 日本語とほぼ同じ意味になるように、与えられた語句を正しく並べかえて英文を完成しなさい。
- あの人たちは結婚するといううわさだ。  
Rumor has it ( are / getting / married / that / they ). (玉川大)
  - 今にも散ろうとする花の訴えかけるような美しさに彼女は見入った。  
She was absorbed in the appealing beauty of ( about / fall / the flower / to / was / which ). (明治学院大)
  - 前々からそこへ旅行に行ってみたいと思っていました。  
I ( on / have / wanted / go / a / always / to ) trip there. (名古屋外国語大)
  - 前の晩に降った雨のせいで水は濁っていた。  
The water ( as a result of / fallen / had / muddy / rain / that / was ) the night before. (玉川大)
  - 私が帰宅するまでには両親は出発しているはずだ。  
My parents ( by / left / will / have / I / arrive / the time ) home. (東京工芸大)
- II 与えられた日本語の英訳になるように、空所を埋めなさい。
- その仕事を終わらせるのにどれくらい時間がかかるかわかりません。  
I don't know ..... (青山学院大)
  - 私が目を覚ましたときには、他の乗客はみんな降りてしまっていた。  
When I woke up, all the other passengers ..... (東北学院大)
  - 私はレポートをこの前の日曜日から書き続けています。  
I ..... since last Sunday. (静岡理工科大)
  - 雨が降っているが行くつもりだ、と彼は言った。  
He said that he ..... (駒沢大)
- Hints I 1. 「…といううわさだ」Rumor has it that ... = There is a rumor that ... 4. 「～の結果」as a result of ~ II 1. cf. How long does it take for you to get to school from your home? 「あなたの家から学校までどれくらい時間がかかりますか」



## Exercises B

## ■ 日本語を英訳しなさい。

1. 歴史というものは我々の文明に妙ないたずらをするものだ。 (筑波大)
2. この頃学生の海外研修旅行が非常に増加している。 (弘前大)
3. 今朝学校へ行く途中、電車の中で眠ってしまった。 (大阪樟蔭女子大)
4. 僕が神戸に着くのは、11月20日の午前10時頃だと思います。恐縮ですが駅まで迎えに来ていただけませんか。 (関西学院大)
5. 田舎の小さな駅で車を降りて20分ほど行くと、白壁の大きな家があった。そこが私の母が育った所だということだった。 (新潟大)
6. 君たちがこの学校に入学する頃には、桜の花はすっかり散ってしまっていて、野山は緑一色につつまれるだろう。 (藤田保健衛生大)
- ★7. 勉強するのが本当に面白いと思うようになるまでには10年の歳月が必要であった。走るのは苦手であるが、ゆっくり歩くのであれば、いくら遠い道でも音をあげない私には、古典の勉強は似合っていた。 (津田塾大)

**Hints** 1. He sometimes *plays tricks on me*. 2. 「研修旅行」 a study trip 3. I was caught in a shower on my way to the station. 4. *I'm sorry to trouble you, but would you show me how to use this machine?* 5. 「田舎」 the country; the countryside (the を忘れないように) | 「家があった」 × There was a house ... はおかしい。 6. 「散る」 fall | *By the time he finished his lunch, the train had already started.* 7. *She never complains of [about] the hard training.* | The atmosphere of the company *suits me*.

## Chapter 2 助動詞

## Model Sentences - Basic

- |                                                           |                                 |
|-----------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 1. The rumor <b>may</b> be true.                          | ▶ そのうわさは本当かもしれない。               |
| 2. The rumor <b>must</b> be true.                         | ▶ そのうわさは本当に違いない。                |
| 3. The rumor <b>cannot</b> be true.                       | ▶ そのうわさは本当のはずがない。               |
| 4. He left an hour ago, so he <b>should</b> be there now. | ▶ 彼は1時間前に出たのだから、もうそこには着いているはずだ。 |
| 5. He <b>would</b> often [used to] play tricks on me.     | ▶ 彼はよく私にいたずらをしたものだ。             |

## Model Sentences - Advanced

- |                                                              |                              |
|--------------------------------------------------------------|------------------------------|
| 1. Oil <b>will</b> float on water.                           | ▶ 油は水に浮くものだ。                 |
| 2. You <b>may well</b> be proud of your son.                 | ▶ 君が息子のことを誇りに思うのはもつともだ。      |
| 3. The street is too busy, and our taxi doesn't move at all. | ▶ 交通量が多すぎて、タクシーがちっとも動かない。    |
| (1) So we <b>had better</b> walk.                            | (1) 歩いた方がいいですね。              |
| (2) So we <b>may as well</b> walk.                           | (2) どうも歩いた方がよさそうな感じです。       |
| 4. You <b>ought not to be</b> so proud.                      | ▶ そんなにうぬぼれるべきではない。           |
| 5. She <b>need not have kept</b> silent.                     | ▶ 彼女は沈黙を守る必要はなかったのに(沈黙を守った)。 |

## Watch out!

メアリ：また電話が鳴っているわ！ もう出たくないの。

ジョン：いいよ。僕が出るよ。

Mary: The phone is ringing again! I don't want to get it any more.

John: All right. × I'm going to answer it.

○ I'll answer it.

**解説** 【MS-B】 1. may 「～かもしれない」(推量) 2. must 「～に違いない」(確信のある推量) 3. cannot 「～のはずがない」(推量 [否定的な確信]) 4. should 「～のはずだ」(推量・見込み) 5. would / used to do 「(以前は)よく～したものだ」(過去の習慣)

【MS-A】 1. will 「～するものだ」(現在の習慣・習性・傾向) 2. may well 「～するのもつともだ」 3. had better 「～する方がよい」, may [might] as well 「～した方がいいだろう」(had better より控えめ) 4. ought to do 「～すべきである」(義務・当然) 5. need not have + 過去分詞 「～する必要はなかったのに(実際は～した)」

【Watch out!】 be going to do は、あらかじめ予定してあることを「～するつもりだ」というときに使う。よって、この会話の状況で使うことは不適切である。